

要 約

講師：小田原 勝夫 先生

にいがた産業創造機構・NICOテクノプラザ 産学連携コーディネーター

日時：平成18年 5月12日16：20から17：50

場所：国立大学法人福島大学 金谷川キャンパスL1講義室

著作権などの課題があり、講義資料をインターネット配信することができないため、小田原先生の講義について紹介します。ご講義は、全体的に、ピーター・F・ドラッカーの言葉、ナノテクノロジー分野や産学官連携での活動を事例にお話しになりました。以下の筆記は、著作権の関係で細かい部分を記述できなかつたり、小田原先生の伝えたい本質を筆記者が表現しきれていない部分も多々あると思います。しかし、小田原先生のご講義を聞かれて、感動した受講者のみなさんが、また、そのときの感動を思い出したいと思ったときに、この要約が役に立てばと思い、掲載いたします。

1. 活躍できる人材像 ～ T字型人間を目指そう ～

幅広い領域に関心を持って、専門領域はとことん深く。そういったT字型人間になろう。

事を始めるにあたっては、

「何をやる必要があるか」

について考える大切である。目的を追究しすぎるということはない。

あるべき姿を考え、現状を分析し、採るべき道筋、すなわち、戦略を考える。

日本は、輸出の8割が電機、自動車であり、資源輸入国である。

(そのほか、生産性や人件費など多々、日本の実情を解説されました。)

産業競争が激しい現代社会では、現状維持は退歩の一步である。そのような社会で生きるためには、生涯学習の努力、マクロで見てミクロで動くなどの努力が必要である。

2. 超微細な世界とキャリア

(HDDなどの磁気記録の分野を事例に、ナノテクノロジーの世界観を解説された。)

大学で機械工学を専攻し、社会経済状況の波にもまれながら、大手電子部品製造会社へ入社した。当時、先端のデバイスであった磁気記録の担当となり、教科書もなく、何から始めたらいいのかわからない。本を徹底的に探した。ちょっとでも関連する本や電気系の月刊誌を読んだ。でも、ちんぷんかんぷん。それでも、わからない用語や理論などを一生懸命調べた。また、そうしているうちに、学会誌に出会う。やっぱり、わからならいので、学会の講演会などへ行き、名刺交換しながら、関連する先生などに質問をしながら、理解を深めた。そして、大学へ行き、専門家である教授へ会いに行き、教わったりもした。そういう継続的な学びから、少しずつ課題が解決でき、少しずつ最先端に近づく努力をした。

3. 学生との質疑応答

(1) 磁気ヘッドなどの最先端の科学技術に取り組むときに、どのように事をはじめたらいいのですか？

(2) 先生の大学卒業後のキャリアを教えてください。

このまま電子部品メーカーで働いていくことがいいことなのだろうか？と悩んだ。その職業人生の分岐点で、ここに残ってがんばるか？それとも去るか？悩んだことがあった。そのとき、

「自分と自分の職場は、この分野で世界一なるんだ」

と思い、仕事を続けることができた。

(3) 大学の先生のところへ通い理解を深めるほどに、磁気記録に興味を持った理由は何だったのでしょうか。

(4) 先生の大学生のころの生活、生き方は、どのようなものだったのでしょうか。